

JISの確認の計画(案)

No	公示の種類	規格番号	現行JIS名称	理由	素案作成者	対応国際規格との整合 【凡例】 1: IDT 2: MOD 3: NEQ 4: 無(提有)対応国際規格が存在せず、 国際規格に提案中又は提案予定のもの。 5: 無(提無)対応国際規格が存在せず、 国際規格に提案しないもの。 6: 無(提未)対応国際規格が存在せず、 今後の対応未定のもの。)	備考
1	確認	Q0073	リスクマネジメント—用語	対応国際規格(ガイド)がISO 31073として国際規格化することが新規提案されたことから、国際規格として発行後にこの規格の改正要否を検討するため、確認とする。	無		1 暫定確認
2	確認	Q10019	品質マネジメントシステムコンサルタントの選定及びそのサービスの利用のための指針	対応国際規格の改訂がなく、引用規格の改正はあるが最新版を引用することとしており、技術的内容の修正の必要もないため、確認とする。	無		1
3	確認	Q14001	環境マネジメントシステム—要求事項及び利用の手引	対応国際規格であるISO 14001:2015の次期改訂も未着手であり、技術的内容の変更がないため、確認とする。	無		1
4	確認	Q27014	情報技術—セキュリティ技術—情報セキュリティガバナンス	対応国際規格が改訂作業中であり、改訂後にJIS改正の要否を判断することから、確認とする。	一般社団法人情報処理学会		1 暫定確認
5	確認	Q38500	情報技術—ITガバナンス	ISO/IEC 38500:2015の改訂内容は、ISO/IEC 38500:2008の構成変更などが中心であり、既に現行JISに反映済であるため、確認とする。	一般社団法人情報処理学会		2
6	確認	Q22313	社会セキュリティ—事業継続マネジメントシステム—手引	認定機関案件として改正作業を進めるが、2020年11月頃申出予定であるため、一旦確認する。	無		1 暫定確認